

B-45 夏季における婦人服の色彩に関する実態調査

広島女子大 香川田鶴子

1. 現在の日本の婦人が着用している衣服の色彩が、どのようなものであるかを正しく把握するために行なったものである。

2. 広島市の中心街において晴天の日を選び、日本色彩社；標準色票を使用し、実態調査を行なった。調査期間は1964年と1965年の6，7，8月の3ヵ月間である。

3. (1) 実態調査において、まず、服装の各種類を調べてみた。その結果、出現率の高いものは、20代でブラウス、ワンピース、30代以上でツーピースであった。

(2) ブラウス、セーターでは、無彩色と有彩色の組合せが最も多い。また、これらの上衣と下衣の組合せにおいて、下衣の明度に比較して上衣の明度の高い組合せが圧倒的に多い。

(3) ワンピース、ツーピースでは無地とプリントがほぼ同率で着用されているが、高年齢になるにしたがってプリント着用率の増加する傾向が認められた。

(4) 夏季における特徴としていえることは、白が圧倒的に多く着用されていることである。色相においては青系統が非常に多く出現している。今夏の昨年夏と異なる点は、黄系統の出現増の現象である。

(5) 一般に、明度においては高明度のものが著しく多く、彩度においては中彩度のものが多く出現している。